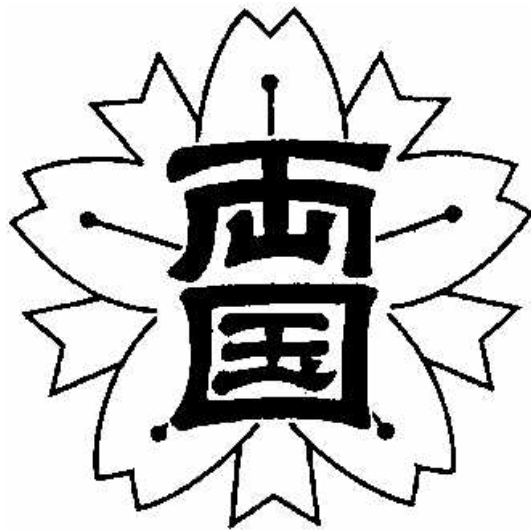


令和 7 年度（2025）

年間授業計画

第 2 学年



東京都立両国高等学校附属中学校

1. 学年学習到達目標

- ①様々な文章を読み、内容を的確に捉える力を高め、論理力や想像力を養う。
- ②言語や表現に対する理解を深め、言葉を大切にしようとする姿勢を養う。
- ③思考力や創造力を養い、目的や意図に応じて的確に表現できるようにする。

2. 授業の進め方（授業形態等）

（1）時間数 週4時間、年間総授業数140時間 （2）授業形態 一斉・講義・演習・グループワーク等

3. 教科書・副教材

教科書	『国語2』（光村図書） 『中学書写』（教育出版）			
副教材	『新国語便覧』（秀学社） 『常用漢字の2×3』（浜島書店） 『論理エンジン』（水王舎） 『原色小倉百人一首』（文英堂） 『すらすら基本文法』（浜島書店） 『標準新演習 国語 中2』（エデュケーショナルネットワーク）			

4. 学習計画

期	月	指導単元名	学習内容	時数	備考
1	4	【現代文分野】 「見えないだけ」 「アイスプラネット」 「クマゼミ増加の原因を探る」	・ 文学的文章、説明的文章 ・ 文章表現 ・ 韻文音読、朗読 ・ 短歌 ・ 口語文法（単語の分類、動詞）	46	〔通年〕 ・ 小倉百人一首 ・ 漢字 ・ 語句 ・ 読解演習 ・ 口語文法
	5	「短歌に親しむ」 「言葉の力」 「盆土産」			
	6	文法 ＜考＞スピーチ等			
	7	【古典分野】 「枕草子」	・ 古典文学の読解		
		【書写分野】 書写（硬筆と毛筆）		6	
2	9	【現代文分野】 「ヒューマノイド」 「モアイは語るー地球の未来」 「君は『最期の晩餐』を知っているか」	・ 文学的文章、説明的文章 ・ 文章表現 ・ 韻文音読、朗読 ・ ディベート ・ 口語文法（形容詞、形容動詞）	51	
	10	文法 ＜考＞ディベート等			
	11	【古典分野】 「平家物語」 「徒然草」	・ 古典文学の読解		
	12	【書写分野】 書写（硬筆と毛筆）		7	
3	1	【現代文分野】 「月夜の浜辺」 「走れメロス」	・ 文学的文章、説明的文章 ・ 文章表現 ・ 韻文音読、朗読 ・ 物語創作 ・ 口語文法（その他自立語）	23	
	2	文法 ＜考＞プレゼンテーション等			
	3	【古典分野】 「漢詩の風景」	・ 古典文学の読解		
		【書写分野】 書写（硬筆と毛筆）		7	

5. 評価について

それぞれの観点については、次の内容を考慮して評価する。

知識・技能……定期考査、漢字、文法、語彙、書写等

思考・判断・表現…定期考査、スピーチ、発表、ノート、作文、レポート等

主体的に学習に取り組む態度…日ごろの授業への取り組み、提出物、小テスト等

1. 学年学習到達目標

- ①世界のさまざまな地域の特色を世界地図や統計資料などからとらえ、「自然環境」「人口」「地域間の結びつき」「生活・文化」「資源・産業」の面から追究し、理解する。
- ②中国大陸や欧米諸国など国際社会の影響を受けながら、日本の近世・近現代の社会が形成されていった過程を理解し、今後の国際社会の中でわが国が果たすべき役割を考察する。

2. 授業の進め方（授業形態等）

(1)週3時間 (2)年間総授業数 105時間 (3)授業形態 1クラス40人授業

3. 教科書・副教材

教科書	「新しい社会地理 地理的分野 東京書籍」「中学校社会科地図 帝国書院」「中学歴史 日本と世界 山川出版社」
副教材	「アドバンス中学地理資料・ワーク 帝国書院」「学び考える歴史（東京都版）浜島書店」 「地理の学習2 浜島書店」「中学歴史 日本と世界ノート 山川出版社」

4. 学習計画

期	月	指導単元名	学習内容	時数	備考（育みたい力）
1	4	【地理分野】 身近な地域の調査	・地域調査 ・九州地方のようす ・中国・四国地方のようす	13	・資料を活用する力 ・さまざまな地域の多様性への理解。 ・歴史資料を活用する力
	5	日本の諸地域			
	6	【歴史分野】 第4章	1節 一体化へ向かう世界 2節 近世社会の成立 3節 幕藩体制の確立 4節 幕藩体制の展開 5節 幕藩体制の動揺	26	
	7	近世の日本			
2	10	【地理分野】 日本の諸地域	・中部地方のようす ・関東地方のようす	15	・資料を活用する力 ・さまざまな地域の多様性への理解。 ・歴史資料を活用する力 ・地域の歴史の調べ方
	11	【歴史分野】 第5章	1節 欧米諸国の近代化と日本への接近 2節 開国と幕末の動乱 3節 立憲国家への道	30	
	12	近代の日本と国際関係			
3	1	【地理分野】 日本の諸地域	・東北地方のようす ・北海道地方のようす	7	・資料を活用する力 ・さまざまな地域の多様性への理解 ・歴史資料を活用する力 ・歴史事象を時系列に沿って説明する力
	2	【歴史分野】 第5章	4節 日清・日露戦争とアジア 5節 近代日本の産業と文化	14	
	3	近代の日本と国際関係			

※学校設定教科「人と社会」の時間数と内容を含んでいます。

5. 評価について

それぞれの観点について次の内容を考慮して評価する。

- ・知識・技能…定期考査、小テスト、課題等
- ・思考・判断・表現…定期考査、発表、ノート、課題等
- ・主体的に学習に取り組む態度…日ごろの授業への取り組み、提出物、ノート等

1. 学年学習到達目標

- ①式についての理解を深め、目的に応じて計算したり式を変形したりすることができる。
- ②連立方程式について理解し、利用することができる。
- ③図形についての基本的な概念や性質について理解を深め、活用することができる。
- ④図形に対して直感的な見方や考え方ができ、論理的に考察し表現することができる。
- ⑤関数的な見方や考え方、確率的な見方や考え方をすることができる。
- ⑥データの分布を整理し、傾向を比較することができる。

2. 授業の進め方（授業形態等）

(1)週 4 時間 (2)年間総授業数 140時間 (3)授業形態 一斉授業 ※週 1 時間は、「1学級2展開の習熟度別授業」で問題演習を行います。

3. 教科書・副教材

教科書	中学校数学2（学校図書）
副教材	体系数学1・2（数研出版）／ 体系問題集数学 発展 完成ノート（数研出版）

4. 学習計画 ※発展的内容 【時数（ ）内の数は1学級2展開の習熟度別授業での時間数】

期	月	指導単元名	学習内容	時数	備考（育みたい力）
1	4	【代数分野】	・ある文字について解く ・文字式の利用（※発展を含む） ・連立方程式とその解の意味	15(4)	各考査の結果をもとに、 習熟度別授業を行う 同一のプリントを使用 し、発展クラスでは、発 展的な内容を中心に、基 礎クラスでは、基礎的な 内容を中心に授業を展開 する。
	5	式の計算 連立方程式 1次関数	※3元1次連立方程式 ・1次関数のグラフの特徴、変化の割合 ・連立方程式と2元1次方程式のグラフ	17(4)	
	6	【幾何分野】	・平行線と角（対頂角、同位角、錯角） ・多角形の内角と外角	20(5)	
	7	図形と合同	・三角形の合同条件の使い方、証明の進め方 ・いろいろな三角形 ・二等辺三角形の性質、定理の意味		
2	9	【幾何分野】 三角形と四角形	・直角三角形の合同条件とその証明 ・平行四辺形の定義、定理とその証明 ・平行四辺形であるための条件 ・ひし形、長方形、正方形と平行四辺形の関 係	24(6)	
	10	円	・中点連結定理とその利用／平行線と面積 ・円周角の定理とその証明		
	11	【代数分野】	・樹形図や表、やや複雑な事象については 計算を用いて場合の数や確率を求める	34(7)	
	12	確率 ・確率の意味、同様に確からしいことの意味	※順列、組合せ ※整数の問題 ※n進法		

3	1 2 3	【代数分野】 データの分布 式の計算 平方根 2次方程式	・四分位範囲や箱ひげ図の利用 ・多項式の計算 ・因数分解 習熟度に応じた、問題演習 ・式の計算の利用（計算の工夫、証明） ・平方根 ・根号をふくむ式の計算 ・有理数と無理数 習熟度に応じた、問題演習 ・2次方程式の解き方 ・2次方程式の活用 習熟度に応じた、問題演習	25(8)
		【幾何分野】		5(1)

5. 評価について

3つの観点「主体的に学習に取り組む態度」「思考・判断・表現」「知識・技能」を3段階で評価する。「主体的に学習に取り組む態度」は、授業への取り組みの様子、宿題や課題などの状況で評価する。他の観点は定期考査、数学コンテスト、小テストなどの成績を中心に評価する。3つの観点の評価を総合して5段階の評定を出す。

1. 学年学習到達目標

- ① 身近な大気現象や化学変化を物理・化学的に理解できること。
- ② 気象や天体の観測、関連する実験や観察と情報処理に必要な技量と科学的な態度を身につけること。
- ③ 時間スケールと空間スケールの大きな自然現象を理解することができること。
- ④ 自然現象がもたらす恵みと災害を科学的に理解し、自分の生活と防災・減災について考えることができること。

2. 授業の進め方（授業形態等）

(1)週 1時間 (2)年間総授業数 35 時間 (3)授業形態 地学教室での一斉授業

3. 教科書・副教材

教科書	未来へひろがる サイエンス2（啓林館）
副教材	新課程フォトサイエンス地学図録（数研出版）

4. 学習計画

期	月	指導単元名	学習内容	時数	備考		
1	4	地球の大気と天気の変化	○気温の観測 熱と温度 ※放射・伝導・対流 電磁波 ☆校内の気温分布 ○湿度の観測 大気成分 飽和水蒸気量 ※水の相変化とエネルギー 絶対湿度と相対湿度 ☆露点の測定 ☆室内外の湿度観測 ○気圧の観測 空気の重さ 高さ気圧	4 4 5	観察・実験、演示実験等をもとに大気現象を身近に感じさせるとともに、物理的な説明も施して発展性のある理解をさせる インターネットを用いて日常の に関する情報を身につけさせる 細かい知識よりも時間・空間概念を身につけさせる		
	5	地球を取り巻く大気の様子 大気の中ではたらく力 大気の様子を観測する					
	6	空気中の水の変化 霧のでき方					
	7	雲のでき方 空気中に含まれる水蒸気量					
	2	8				天気の変化と大気の動き 風がふくしくみ 大気の動きによる天気の変化	3
		9				地球規模での大気の動き 大気の動きと日本の四季	8
		10				日本の季節による天気の特徴をもたらしもの 日本の四季の天気	4
11		天気の変化がもたらす恵みと災害					
12		地球を観る 太陽と恒星の動き 太陽の動き 星座の星の動き					
3		1	月と金星の動きの見え方 月の動きと見え方 金星の動きと見え方	4			
		2	宇宙の天体 太陽	3			
	3	太陽系					
		宇宙の広がり					

5. 評価について

定期考查結果、授業（発言、実習・観察、発表）中の態度、実習プリントやレポートによる課題の成果、ノートやプリント等の記入状況などにより随時評価し、それらを総合的に評価する。

1. 学年学習到達目標

- ① 身近な事物・現象についての観察・実験を通して、光や音の規則性や力の性質について理解するとともに、これらの事象を日常生活との関連づけて科学的に見る見方や考え方を養い、光・音・力のはたらきに対する興味・関心を高める。
- ② 電流回路についての観察・実験を通して、電流と電圧との関係および電流のはたらきについて理解するとともに、日常生活との関連づけて電流と磁界についての初歩的な見方や考え方を養い、電流に対する興味・関心を高める。
- ③ 身近な物質を化学式で表し、化学変化の仕組みを化学式を使って説明できるようになる。
- ④ 化学反応における簡単な量的関係を理解する。

2. 授業の進め方（授業形態等）

- (1)週 2時間 (2)年間総授業数 70時間 (3)授業形態 教室・物理実験室・化学実験室での一斉授業

3. 教科書・副教材

教科書	新しい科学 1（東京書籍）、未来へひろがるサイエンス 2（啓林館）
副教材	最新理科便覧東京都版（浜島書店）、中高一貫 進展理科 物理編（文理）、中高一貫 進展理科 化学編（文理） アシスト科学と人間生活 新訂版（化学資料＋問題集）実教出版

4. 学習計画

期	月	指導単元名	学習内容	時数	備考
1	4	【物理分野】 光の世界	・ 光の進み方 ・ 光の反射	26	実験・観察を基本とする。
	5	音の世界	・ 光の屈折、全反射 ・ 凸レンズによる像のでき方 ・ 音の伝わり方 ・ 音の大きさと高さ		
	6	【化学分野】 物質のなり立ち	・ 物質の加熱分解 ・ 物質の電気分解 ・ 物質をつくるもの ・ 原子、分子、イオン		
	7	物質どうしの化学変化	・ 化学式 ・ 化学反応式 ・ 物質の結びつき方 ・ 物質の燃焼		
2	9	【物理分野】 いろいろな力の世界	・ 物体にはたらく力 ・ いろいろな力と力の表し方 ・ 力のつりあい ・ 圧力、水圧、浮力	30	基本的な実験操作の習得
	10				
	11	【化学分野】 酸素がかかわる化学変化	・ 酸化・還元 ・ 反応における熱 ・ 化学変化における質量の関係 ・ 化学変化における物質の質量の比		
	12	化学変化と物質の質量			
3	1	【物理分野】 静電気と電流	・ 摩擦電気 ・ 静電気のはたらきと電流 ・ 電流の流れ方 ・ 回路に流れる電流 ・ 直列回路、並列回路 ・ 電圧と電流の関係（オームの法則） ・ 抵抗の直列接続、並列接続	14	
	2				
	3	【化学分野】 化学変化とその利用	・ 化学変化と熱 ・ 私たちのくらしと化学変化		

5. 評価について

定期考査結果、授業（発言、実習・観察、発表）中の態度、実習プリントやレポートによる課題の成果、ノートやプリント等の記入状況などにより随時評価し、それらを総合的に評価する。

1. 学年学習到達目標

- ① 本校の教育目標にもなっている、自ら考え、未来を切り開く意欲と行動力のある生徒、豊かな教養を身につけ、社会に貢献する高い志と使命感を持ち、責任を果たす生徒を育成する。
- ② 自然環境と人間生活との関わりに関する現代の特徴と課題を知り、地球環境保全に貢献できる人材を育成する。

2. 授業の進め方（授業形態等）

(1)週 1 時間 (2)年間総授業数 3 5 時間 (3)授業形態 生物教室での一斉授業

3. 教科書・副教材

教科書	未来にひろがるサイエンス 啓林館
副教材	最新理科便覧東京都版（浜島書店）

4. 学習計画

期	月	指導単元名	学習内容	時数	備考
1	4	○自然の中の生物 ○自然環境の調査と保全	・生物のはたらき 〔実験〕植物の呼吸や光合成	13	科学的な測定や調査の基本を学ぶ。
	5		・生物と環境 身近な環境の調査 〔実験〕土の中の微生物のはたらき		
	6		〔実験〕土の中の微生物の観察		
	7		・自然界での物質循環 ・様々な環境問題		
2	9	○生物の多様性と進化 グループ別調べ学習	・地球史上の地球環境と生物の特徴 〔調査・発表〕地質年代別の特徴	15	I C T機器を使いこなして情報の集め方と真偽の判別法や情報倫理を身につける。
	10		①先カンブリア代		
	11		②古生代前半		
	12		③古生代後半 ④中生代 ⑤新生代古第三紀と新第三紀 ⑥新生代第四紀		
3	1	○科学技術と人間	・環境問題と科学技術 〔調査・報告〕	7	正しい知識と根拠をもとに自分の考えを表現する力をつける。
	2		①科学技術の成果とその利用 ②人間生活がもたらした問題 ③環境を守る科学技術		
	3		・エネルギー資源の利用 ・人と自然について考察する		

5. 評価について

- ①授業での観察 ②実験・研究レポート ③発表
レポート・発表などに、文章で表現するものを多く取り入れ、表現力の向上に努める。

1. 学年学習到達目標

- ①幅広い活動を通して、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につける。
- ②曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽の諸要素を理解しそのよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- ③主体的・協働的に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむ態度を養う。

2. 授業の進め方（授業形態等）

(1)週1時間 (2)年間総授業数 35時間 (3)授業形態 一斉（40人）

3. 教科書・副教材

教科書	中学生の音楽2・3上（教育芸術社）中学生の器楽（教育芸術社）
副教材	MY SONG 7訂版（教育芸術社）音楽のハーモニー2・3年上（正進社）

4. 学習計画

期	月	指導単元名	学習内容	時数	備考
1	4	器楽（リコーダー）	・アルトリコーダーの基礎的な奏法を身につける。	4	
	5	鑑賞（独奏曲）	・フーガ形式について理解し、パイプオルガンの豊かな響きを味わう。	2	
	6	歌唱（斉唱・合唱）	・発声、ブレス、姿勢など歌唱における基礎的な技能を伸ばす。	6	
	7	楽典	・音符・休符の長さ、拍子とリズム、諸記号などについて理解する。	1	
2	9	創作・箏	・グループのメンバーと協力しながら「さくら」にふさわしい前奏・間奏を作り、息のあった演奏をめざす。	5	
	10	鑑賞（交響曲）	・ソナタ形式について理解し、オーケストラによる多彩な響きを味わう。	2	
	11	楽典	・音階や調について理解する。	2	
	12	歌唱（斉唱・合唱）	・歌詞の内容を生かして表現を工夫するとともに、基礎的な歌唱の技能を向上させる。	6	
3	1	歌唱（斉唱・合唱）	・声部の役割や曲の雰囲気の変化を理解し、クラスメイトと協力しながら表情豊かな表現をめざす。	5	合唱コンクール
	2				
	3	鑑賞（歌舞伎）	・歌舞伎の特徴を理解し、音楽と舞台との関わりによる表現を味わう。	2	

5. 評価について

- ①出席状況 ②授業での取り組み ③実技発表、実技テスト
- ④定期考査 ⑤感想文 ⑥提出物

1. 学年学習到達目標

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。

2. 授業の進め方（授業形態等）

- (1) 週 1 時間 (2)年間総授業数 35時間 (3)授業形態 一斉（美術室）

3. 教科書・副教材

教科書	開隆堂「美術2・3 探求と継承」
副教材	

4. 学習計画

期	月	指導単元名	学習内容	時数	備考
1	4	感情の化身のマスク制作	・ 任意の感情を表す漢字一文字を選び、その感情の化身を制作する。 ・ 人や動物の骨格、筋肉を参考にし、造形的リアリティのある形や彩色を目指す。	13	
	5				
	6				
	7				
2	9	モダンテクニック	・ モダンテクニックの技法が取り入れられた絵画作品等を鑑賞する。 ・ ドリッピング、マーブリング、スタンピング、フロッタージュ、デカルコマニー、スパッタリング等各種モダンテクニックの技法を知り表現する。	7	
	10	コラージュ「夢の世界」	・ 各種モダンテクニックでできた色彩表現を活かし、それらをコラージュして夢の世界を表現する。	8	
	11				
	12				
3	1	国際交流アルバム	国際交流にいかせるアルバムをデザイン、制作する。	7	
	2				
	3				

5. 評価について

- ①学んだ知識、技能を活用し作品に表すことができたか。
- ②課題を踏まえコンセプトを基に発想することができたか。
- ③主体的に意欲を持って授業に取り組むことができたか。
- ※以上の点を中心に作品、ワークシート、クラスノートブック、授業態度、出欠を基にして評価する。

1. 学年学習到達目標

- ①各種の運動を適切に行うことによって、自己の体の変化に気づき、体の調子を整えるとともに、体力の向上を図り、心身をたくましく成長させる。
- ②個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理する能力を身につける。
- ③運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、事故の役割を果たす、一人ひとりの違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、事故の最善を尽くして運動する態度を身に付ける。

2. 授業の進め方（授業形態等）

(1)週3時間 (2)年間総授業数 105時間 (3)授業形態 一斉（一部男女別習）

3. 教科書・副教材

教科書	大日本図書 中学校保健体育
副教材	大日本図書 中学校保健体育ノート2 学研 中学体育実技2024

4. 学習計画

期	月	指導単元名	学習内容	時数	備考
1	4	【体育分野】 体づくり運動	体力を高める運動／体ほぐし運動 体力テスト／運動と体や心の働き	2	体育祭 体力テスト
	5	陸上競技 器械運動	短距離走／走り幅跳び マット運動	6 5	
	6	ダンス 体づくり運動	創作ダンス／ソーラン節 新体力テスト	5 4	
	7	水泳 武道	クロール／平泳ぎ／背泳ぎ 剣道（基本動作、対人的技能）	6 4	
	7	【保健分野】 健康と環境 傷害の防止		3	
	9	【体育分野】 水泳	クロール／平泳ぎ／背泳ぎ	6	
	10	球技①②	サッカー バドミントン	9 9	
2	11	共通：バレーボール 武道	共通：バレーボール 剣道（基本動作、対人的技能）	9 4	
	12	【保健分野】 健康と環境 傷害の防止		3	
	1	【体育分野】 陸上競技	長距離走	8	
	2	球技（選択種目） 武道	①バスケットボール ②ソフトボール 剣道（基本動作、対人的技能）	8 3	
3	3	【保健分野】 健康と環境 傷害の防止		3	球技大会

5. 評価について

- それぞれの観点については、次の内容を考慮して評価する。
- (1) 知識・技能・・・定期考査、学習カード、技能テスト
 - (2) 思考・判断・表現・・・定期考査、授業への取り組み、学習カード
 - (3) 主体的に学習に取り組む態度・・・出席状況、忘れ物、授業への取り組み、提出物の状況

1. 学年学習到達目標

- ①テーブルタップ等の製作において、体験を通じ、工具や機器の取り扱いについての基礎的な知識と技能を養う
- ②感電・漏電など電気事故の危険性を知り、事故を防止する方法を理解する
- ③身に付いた技能や知識を活用し、生活での問題を解決する能力を育成する

2. 授業の進め方（授業形態等）

(1)週 1 時間 (2)年間総授業数 35 時間 (3)授業形態 一斉 (40人)

3. 教科書・副教材

教科書	新しい技術・家庭 技術分野 (東京書籍)
副教材	マツゴロウ、テーブルタップ

4. 学習計画

期	月	指導単元名	学習内容	時数	備考
1	4	1 編：材料と加工の技術	木材加工実習（後半） ・切断 ・部品加工 ・組み立て	11	
	5				
	6				
	7				
2	9	1 編：材料と加工の技術	3 章 社会の発展と材料と加工の技術	1	
	10	3 編：エネルギー変換の技術	1 章 エネルギー変換の技術の原理・法則と仕組み	14	
	11		2 章 エネルギー変換の技術による問題解決		
	12		・テーブルタップ製作		
3	1	3 編：エネルギー変換の技術	1 章 エネルギー変換の技術の原理・法則と仕組み	9	
	2		2 章 エネルギー変換の技術による問題解決		
	3		・電子機械工作		

5. 評価について

- ・定期考査、課題、実習、プリント、ノート、レポート、作品、発表、平常点等総合的に評価する。

1. 学年学習到達目標

① 中学生に必要な栄養の特徴や健康によい食習慣、栄養素や食品の栄養的特質、食品の種類と概要、献立作成、食品の選択と調理などに関する知識及び技能を身に付け、これからの生活を展望して、食生活の課題を解決する力を養い、食生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成す

2. 授業の進め方（授業形態等）

（1）週1時間 （2）年間総授業数 35 時間 （3） 授業形態 一斉（40人）

3. 教科書・副教材

教科書	新しい技術・家庭（家庭分野）（開隆堂）
副教材	家庭科ワークノート（地域教材社）

4. 学習計画

期	月	指導単元名	学習内容	時数	備考
1	4	B 衣食住の生活 食生活	B（1）食事の役割と中学生の栄養の特徴	11	
	5				
	6				
	7				
2	9	B 衣食住の生活 食生活	（2）中学生に必要な栄養を満たす食事 （3）日常食の調理と地域の食文化 調理実習（魚、肉、野菜を用いた調理） （煮る、焼く、蒸す）	15	
	10				
	11				
	12				
3	1	B 衣食住の生活 食生活	地域の食材を用いた和食の調理 （7）食生活についての課題と実践	9	
	2				
	3				

5. 評価について

定期考査、実習、発表、提出物等から総合的に評価する。

1. 学年学習到達目標

- ①教科書などの英文を聞き手が理解できる正しい発音で音読できる。
- ②スピーチ、スキット、Oral Presentationなどで、英語を用いて自分の考えなどを論定的に話して伝えることができる。
- ③スピーチの題材などのテーマに基づいて、まとまった内容を英語で論理的に書くことができる。
- ④初歩的な（英検3、4級程度）英語を聞き取ることができる。
- ⑤初歩的な（英検3、4級程度）語句や文を読んで理解できる。

2. 授業の進め方（授業形態等）

(1)週4時間 (2)年間総授業数140時間 (3)授業形態 一斉(週1時間：ALTとのTT/週2時間：JETとのTT/週1時間：単独)

3. 教科書・副教材

教科書	NEW HORIZON English Course 2（東京書籍）
副教材	Basic Grammar in Use（Cambridge）Let's Enjoy BINGO2(浜島書店) 英語のたて×よこドリル2(正進社) Japan(Oxford)

4. 学習計画

期	月	指導単元名	学習内容	時数	TT(ALT) Lesson
1	4	Orientation Unit 0	[英語の学習方法、言語活動の基本] My Spring Vacation [復習]	52	Orientation [語い、音声] Skit 1 「基礎英語レベル2」 Skit 2 日本の物語 Interview 1 「日本文化紹介」
	5	Unit 1 Unit 2	What can we experience on a trip? [未来表現・5つの文構造] What is local food? [接続詞]		
	6	Unit 3 Unit 4	What kind of job are you interested in? [不定詞] What is important in a homestay? [助動詞]		
	7	Let's Read 1	History of Clocks 英文多読・映画で学ぶアメリカの歴史と文化の理解		
2	9	Unit 4	What is important in a homestay?[助動詞・動名詞]	60	Skit 3 「道案内」 Skit 4 「買い物」 Interview 2 「学校生活」
	10	Unit 5 Unit 6	What design is good for everyone? [疑問詞+to+動詞・that節]		
	11	Let's Read 2	How can we make a good presentation? [比較表現]		
	12		A Glass of Milk 英文多読・映画で学ぶアメリカの歴史と文化の理解		
3				28	Skit 5 「商品コマーシャル」 Skit 6 「電話でのやりとり」 Interview 3 「世界遺産紹介」
	1	Unit 7 Let's Read 3	What are World Heritage sites and their problems? [受け身] Pictures and Our Beautiful Planet		
	2	Reading Plus	英文多読、絵本のBook Recommendation		
	3	Orientation	[英語の学習と評価]		

5. 評価について

- I 知識・技能（定期考査、音読テスト、Shadowing、Presentation、Skit、面接テスト、ライティング課題）
- ① 語いやフレーズを理解し、適切な表現として使用することができる。
 - ② 正しい語順や文型、語法などの文法事項をふまえて、適切な表現にすることができる。
 - ③ 必要な情報を、正確に聞き取ることができる。
 - ④ ある分量の英文を読んで、必要な情報を正確に読み取ることができる。
 - ⑤ 間違いやすい音に留意して、正確な発音やアクセントを用いて教科書本文の音読ができる。
 - ⑥ 相手に配慮しながら、コミュニケーションを継続することができる。
 - ⑦ 既習の文型や語法、適切な文章形式をふまえて、英文を正確に書くことができる。
- II 思考力・判断力・表現力（定期考査、Presentation、Speech、Skit、面接テスト、Discussion、Debate、ライティング課題）
- ⑧ 話された内容の概要・要旨を聞き取ることができる。
 - ⑨ ある分量の英文を読んで、その大意を読み取ることができる。
 - ⑩ ある分量の英文を読んで、その大意から次の展開を推測することができる。
 - ⑪ ある分量を読んで、論理展開や順序を読み取ることができる。
 - ⑫ 英語の音声と内容を伝えることを意識して、音読やプレゼンテーションをすることができる。
 - ⑬ 聞き手を説得できるように論理的に自分の意見を述べることができる。
 - ⑭ あるものの描写や詳細を説明することができる。
 - ⑮ 相手が話したいことに対して質問をしたり、答えたりしながら議論を継続することができる。
 - ⑯ 目的や場面に応じて適切な表現を用いて書くことができる。
 - ⑰ 順序や論理展開を意識してまとめた分量の文章を書くことができる。
- III 主体的な学習に取り組む態度（授業での取り組み、課題提出、自己評価・自己分析など）
- ⑱ 英語で進められる授業に参加し、言語活動に積極的に参加することができる。
 - ⑲ 文化・歴史・社会等の課題について積極的に考え、自らの生き方の向上に取り組むことができる。
 - ⑳ 自己の学習を振り返り、常に改善・向上の態度を持つことができる。

※ 中高6年間共通の評価規準のため、⑩⑪⑰は中学では見取らない。